⑮第１回防災イベント開催　平成７年(1995年)

【背景】

平成７年(1995年) １月17日に阪神淡路大震災後、まちづくり協議会においても、防災問題への関心が急速に高まり、「まちづくり協議会の課題として取り組む必要があるという」提案がありました。ニュースでは、神戸のまちづくり活動を行っていた地区の復興が早く進んでいるといった映像も流れていましたので、「災害とまちづくりの関係を知る機会を持とう」ということでした。

【検討】

阪神淡路大震災の状況を現地で見聞きしてきた区の職員の方の話を聞いたうえで、実際の防災訓練を行ってもらうことにしました。消防署と地元の消防団である16分団にも協力依頼することとしました。

【結果】

震災後いち早く現地入りした世田谷区建築調整課の原昭夫課長より、「大震災があったからと言って何か新しいまちづくりがあるわけではない。地域に住む者の目で、もう一度防災について考え直してみることが大切である」更に以下の３点を強調されました。

○他人を頼らない

○私たち一人一人が済み手として地域の中で何ができるかを考える

○自分自身にしっかりした判断力をつける

また、地域振興課の植田鉱氏より、世田谷区や東京都、国では震度６を想定して広域的な防災対策を講じているなどの説明がありました。

講演会終了後、桜樹広場において防災訓練を行いました。消防署員の指導による三角巾の使い方などの「応急救護訓練」、火のついた天ぷら鍋に濡れた布をかぶせた手火を消したり、消火器による「消火訓練」も行いました。世田谷消防団第16分団による軽可搬ポンプの実演、そして、桜丘町会の釜を使い、薪で火を起こしての「炊き出し訓練」などに、地域の多くの方が参加してくれました。防災用品も販売したのですが、あっという間になくなりました。参加した人たちと地元消防団の方々の距離も近くなったイベントでした。

▲防災セミナー

⑯桜丘小学校の児童との意見交換会開催　平成６年(1996年)

桜丘小学校の社会の研究課題として、「桜丘のまちについての研究を行った」という情報が大下さんから紹介されました。「研究成果を学校だけではなく、地域の人たちにも聞いてもらう機会を作ってあげよう」ということで、研究成果の発表と子どもたちとの意見交換会を行うこととしました。桜丘集会室で、子どもたちの研究テーマごとに発表してもらい、まちづくりのメンバーが加わって、グループ討論を行いました。「歩きたばこの火や放置自転車のハンドルが、子どもの目の高さになるため、非常に危険である」等、大人の視点からは気づかないような街の課題なども多く提示されました。まちづくり協議会では、意見交換会で子供たちから指摘・提案された課題についても取り組むことにしました。

⑰桜丘まちづくり祭りから「ちとふな祭り」へ　平成７年(1995年)～

【背景】

桜丘地区のまちづくり整備計画ができると、小田急線の千歳船橋駅の高架複線化の検討を行うには、駅の北側の整備計画も検討する必要がありました。ただ、駅の北側は砧総合支所の管轄というこ

とで、新たなまちづくり協議会を組織して進める必要がありました。桜丘まちづくりとの整合をとる必要があるということで、「千歳船橋駅北側まちづくり協議会」の立ち上げに小野さんがコンサルとして加わることになりました。千歳船橋駅北側まちづくり計画については、別の機会に説明するとして、このまちづくりがきっかけとなって開催されるようになった「ちとふな祭り」について紹介することとします。

【検討】

千歳船橋駅の北側には、小田急線の高架に伴い広場ができる計画になっていました。しかし、広場に通じる道路は狭かったこともあり、交通計画に基づく道路計画をどうするか検討する必要がありました。駅前広場が整備された場合、周辺住宅地から広場へのアクセス路の計画などが課題となりました。「地域住民にまちづくりに関心を持っていただくにはどうしたらよいか」なども議論されました。桜丘で開催している『桜丘まちづくり祭り』が「地域のコミュニティーづくりに貢献している」ということでした。住民に街づくりを周知するためのイベントを企画することになりました。桜丘のまちづくり祭りを参考にしながら船橋地区のまちづくり協議会が企画案を提案しました。関係する団体に呼びかけることとしました。

【結果】

第1回目の街づくり祭りは、船橋1丁目の公園ということで、駅前から離れるということで、どれだけの人が集まるか心配でしたが、船橋会(自治会)、商店会、法人会などにも協力をお願いして盛大に行われました。桜丘まちづくり協議会のメンバーも企画から運営まで手伝いました。その後、千歳虎屋さんの前(現在の青山堂さんのところ)が小田急電鉄の代替地で空き地になっていましたので、第2回目の祭りはここを借りて行いました。この場所は、雑草が生えており、空き缶やゴミが放置されていましたので協議会会員が総出で清掃しました。その後、小田急線の工事に伴い、空き地が利用できなくなったことから、森繁通りで開催されるようになり、現在は、駅前広場を利用しての「ちとふな祭り」「フリーマーケット」へと繋がっています。祭りは地域の心を一つにする手段としては効果があると思います。

⑱まちづくりバザーの開催　平成8年(1996年)

【背景】

まちづくり協議会は、完全なボランティア活動であり、定例会で様々なテーマが提案されるものの、事業を行うための資金がありませんでした。ハード面での支援は、前年度に区に活動計画を提示して、予算が付けば事業を行うといった状態でした。

【検討】

まちづくり協議会で「事業を行うには、ある程度の活動資金をプールしておく必要があるのではないか」ということで、資金調達の方法を検討しました。例会に参加していたPTAの方から、「桜丘中学校では、記念行事を行う資金として、バザーを行っている。まちづくり協議会でもバザーを行ってみてはどうか」という提案がありました。「バザー用品をどう集めるか」「人集めをどうするか」など検討課題として挙がりました。

【結果】

品物集めは、まちづくり活動の成果や今後の活動計画などをポスターにして掲示するとともに、商店街などにも呼びかけた結果、豊富な品物が集まりました。人集めは、協議会メンバーによる「とん汁」「お茶コーナー」、桜樹広場にある柿の無料配布などが功を奏して、バザー品物の前は人々の列で活況を呈していました。同時にまちづくり活動の様子や都営住宅建て替え時の模型の展示も行いました。

▲バザーのチラシ

⑲ まちづくり協定エリアの拡大
平成８年(1996年)・平成10年(1998年)

【背景】

都営住宅周辺のまちづくり協定ができて、自分たちの居住環境を良好な状態で維持していくためには、都市計画法や建築基準法だけでは守れないということが、まちづくり協議会の会員も理解するようになりました。自分たちの居住環境は、自分たちでルールを作る必要があるということです。都営住宅周辺エリアにはまちづくり協定を締結したエリア外にも大きな庭がある住宅が多数ありました。そこで、できるだけ広範囲に住環境を維持していく必要があるということで、まちづくり協定エリアの拡大が提案されることとなりました。

【検討】

協定は私権を規制することになるため、なかなか理解してもらうことが大変でした。敷地にゆとりのある所はセットバックしても建築可能ですが、間口が狭かったりするとセットバックにより建築可能な面積が小さくなるためです。全体説明会の後は、個別に事情を伺いながら納得してもらう作業が続きました。コンサルの若松さんが休日や夜遅くまで対象エリアの住宅に伺って根気よく説明していました。既にまちづくり協定を締結した方に口添えしていただくこともありましたが、強引に進めると住民同士の相隣問題になってしまうため、時間をかけて進められました。

【結果】

それでも、全員が参加することは難しく、賛同していただける方だけでも協定を結ぶということになりました。協定の内容も最初に締結されたエリアより緩い協定になりました。このような協定は、強制力がないだけに運営側のやる気にかかってきます。残念ですが更新することなく10年で消滅することとなってしまいましたが、協定エリアであったということで、住民の方の意識も高く、極端に細分化されることもなく、良好な環境は保たれています。

⑳ 桜丘まちづくり音楽会の開催
平成９年(1997年～)

【背景】

桜丘区民センターの集会室はスポーツ系、都営住宅内の集会室は文化系の利用の仕方ができるようにという方針だったということで、都営住宅の建設時に地域還元施設としての集会室が作られました。具体案についてはまちづくり協議会から提案され、ほぼ提案内容の施設として平成６年(1994年)５月に児童遊園(現在の桜樹広場)を含む都営住宅建て替え事業が完成しました。桜丘集会室は、４月1日から区に移管され、本格的にオープンする前の３月27日の日曜日に、集会室完成祝賀会を記載しました。記念式典の後に地域に在住の方によるコーラス・ピアノ・バイオリン演奏や手品などを披露しました。区の施設ではありますが、企画から実行まで住民による手作りの祝賀会で、行政関係者を招待するといった形でした。この式典での演奏会がきっかけとなり、小演奏会の開催が可能な施設であるということが地域住民にも周知することになりました。

【検討】

現在のような国際的な音楽家を招聘しての音楽会を開催するきっかけになったのは、まちづくりエリア内にお住いのオペラ歌手である獄道優子さんと小野コンサルとの雑談の中から発案されました。「都営住宅の中に当事務所が設計した集会室があり、音楽もできるようなホールの形になっているので有効に活用したいのだが、何かいいアイディアはないだろうか」というのが始まりでした。獄道さんのご主人であるフィリップ・モルさんが、ベルリン・フィルハーモニーでカラヤン時代のチェンバリストで、「世界中に友人がいるので、その人たちに演奏をお願いすることが可能だ」とのことでした。現地に案内したところ「せっかく、このような施設があるのだから、子どもたちを招待して世界の一流の音楽家の演奏を聴いてもらいましょう」という

提案でした。当時は、ご主人のフィリップ・モルさんが、世界的に有名なピアニストということは知りませんでした。第1回は、平成8年(1996年)12月14日(土)の午後1時開演ということで開催されました。桜丘地区で音楽を愛する皆さんが集合して、コーラス、ハンドベル、ギター、チェロ、マリンバやソプラノ独唱など盛りだくさんのプログラム内容でした。特別出演として、ソプラノ歌手の獄道優子さんが、パートナーのフィリップ・モルさんの伴奏で素晴らしい歌声を披露してくれました。最後には来場者全員で合唱するという盛り上がりでした。来場者からのアンケートでは、「老いも若きも一緒に歌い、とても楽しいひと時でした」「小さな街で大きなコンサート。大変すばらしいと思います。素敵な街にしましょう」「また楽しみにしています」といった内容が多く寄せられました。このことが、次回以降の音楽会開催の契機となりました。まちづくり活動の目的は、住宅地としての「緑豊かな環境作り」と「ゆとりある生活環境づくり」といったハード面と子供の時から「一流の音楽に触れることで、ゆとりある子どもを育てる」「音楽で活力ある商店街づくりを目指す」といったソフト面でも取り込もうということです。「共通言語である音楽を通じて、子どもたちの健全育成」を大きなテーマになっています。

【結果】

このようにして始まった音楽会は、獄道さんとフィリップさんの友人が出演してくれるようになると、世田谷区でも評判の音楽会となりました。平成16年(2004)年1月16日の読売新聞では、「お茶の間気分で(一流)堪能」「ベルリン・フィル奏者　区民が招待」と大見出しで紹介されました。「割烹着でも赤ちゃん連れでも楽しめるコンサート」、商店街の参商会も「文化事業で街おこしを」と後押ししてくれました。

開催するには、ポスター作りから会場設営など費用が掛かりますが、区の集会室ということで、チケット販売などの収益事業を行うことができませんでした。出演者の交通費や資料などの費用を捻出することをどうするかという課題がありました。最初のうちは、区よりまちづくり活動資金の助成を受けておりましたので、何とか出演者へのお礼を出すことができたのですが、助成金がなくなってからは、商店街からの寄付とプログラム裏面の協賛金などで賄っていました。現在はリサイクルショップの売り上げ、古着古布の回収の収益、座席整理券などの協力金で運営しています。

音楽会は2部構成になっており、一部は地域で音楽活動をしている方々の発表の場、2部はプロによる演奏会としていました。当初、出演申し込みも多かったことから、区民センターでも「音楽の集い」という企画で発表の場を設けることになり、現在も続いています。これまでに出演していただいた藤井香織さん、オペラ歌手の佐々木アンリさんは東京藝術大学の学生さんでしたが、今では世界を舞台に活躍している音楽家となっています。また、この音楽会に出演していただいたNHK交響楽団の打楽器奏者の植松透さんは、演奏会の後に桜丘地域が気に入ったといって、桜丘3丁目に家を建てて引っ越してくることになりました。今では、奥様と二人で区民センターや学校などで地域のために演奏会を開催していただいています。

（第三種郵便物認可）　読売新聞　2004年(平成16年)1月6日(火曜日)

お茶の間気分で「一流」堪能

ベルリン・フィル奏者　区民が招待

豪華な住民同士の交流を―。世田谷区桜丘地区の区民らが二月、ドイツのベルリン・フィルに所属するピアノトリオを招待してコンサートを開催。「一流の演奏が楽しめる」と好評で、地元商店街も「文化事業で街おこしを」と後押ししている。

2月にコンサートを開くピアノトリオ

世田谷・桜丘　商店街も後押し

主催するのは、地域の街づくりにもっと住民の声を反映させようと、一九九〇年に結成された「桜丘まちづくり協議会」。

コンサートができるように、都に要請して倉庫住宅の集会室に音響設備を設置してもらい、九七年から子どもたちやプロによるコンサートを開催。これに地元住民ボランティア歌手の力も加えながら、イタリアのスカラ座所属のフルート奏者らも出演した。

今回招くのは、ピアノとバイオリン、チェロを演奏する三人で、世界的に有名なオーストリアのザルツブルク音楽祭に出場した実績もある。

一百人ほど収容の集会室に、パイプいすを並べ、アットホームな雰囲気の中、一流の演奏が楽しめる。同会の小野寿雄さん(74)は「かっぽう着を着ていて恥ずかしくて、子どもを連れてきても楽しめるようなコンサートにしたい」と話す。

地元の商店街も、加盟店で商品を買うと、ポイントがつく。

NPO紹介HP

板橋区　区内など200

ボランティアなどの情報いる。NPOや、専門の広報部門を持たないことが多いため、団体の活動を広めるため、区内で活動するNPOとHPを開設する手助けとして、区がHPを設けた。団体情報のほか、イベント情報や助成金の案内、募金・物品寄付情報などを含む十一のコーナーがあり、区内外に本拠地を置く、活動地域やキーワードで検索もできる。

▲読売新聞2004年1月16日刊

現在まで開催された音楽会の主な出演者（敬称略）を年代別に上げると以下のようになります。

◇1998年12月
「第3回まちづくり音楽会：マリンバとリズムコンサート」
マリンバとパーカッション　田村優輝子

◇1999年
「フルートとピアノコンサート」
平成14年（1998年）「第44回マリア・カザルス国際コンクールで
史上最年少2位となった藤井香織と
フィリップ・モルとのコンサート開催

◇1999年7月
「20世紀の金管奏者ゴールデンホルンコンサート」
ホルン：トーマス・ベーコン、ジェイムス・クレーバー

◇2000年6月
「トロント交響楽団
コンサートマスター・ヴァイオリンコンサート」
ヴァイオリン：ジャック・イスラエル・ヴィッチ
（ストラディバリの調べ）
ピアノ：フィリップ・モル

◇2000年
「フルート・デュオコンサート」
フルート：ダヴィデ・フォルミサーノ
ピアノ：フィリップ・モル

◇2001年9月
「ミラノスカラ座（グリンカアンサンブル）」
フルート：ダヴィデ・フォルミサーノ
オーボエ：フランセスコ・ディ・ローザ
クラリネット：ファブリツィオ・メローニ

◇2001年12月
「第8回まちづくり音楽祭」
ピアノ：丸山和範　ソプラノ：嶽道優子

◇2002年2月
「ベルリン・フィルハーモニーピアノトリオコンサート」
ピアノ：フィリップ・モル
ヴァイオリン：リューディガー・リーバーマン
チェロ：クリストフ・イーゲルブリンク

◇2002年9月
「ミラノスカラ座共演コンサート」
フルート：ダビデ・フォルミサーノ
オーボエ：フランセスコ・ディローザ
クラリネット：ファブリツィオ・メローニ
ピアノ：フィリップ・モル

◇2004年2月
「ベルリン・フィルハーモニーピアノトリオコンサート」
ピアノ：フィリップ・モル
ヴァイオリン：リューディガー・リーバーマン
チェロ：クリストフ・イーゲルブリンク

◇2004年12月
「日本の伝統音楽とアイルランドの音楽」
箏：松井美千子　バンドネオン：守安雅子　フルート：守安功

◇2005年4月
「フルート・デュオ　ピアノコンサート」
フルート：ジャン・クロード・ジェラール ダビデ・フォルミサーノ
ピアノ：フィリップ・モル

◇2007年10月
「レディ・ジニー・ゴールウエイ＆FRIENDS」
フルート：レディ・ジニー・ゴールウエイ
ギター：新井伴典　歌：嶽道優子

◇2007年
「丸山和範とピアノコンサート」

◇2009年6月
「シャンソンコンサート（企画：アン・あんどう）」
ボーカル：かとうえいこ　ピアノ：久保田廣和
アコーディオン：田ノ岡三郎

◇2009年9月
「グリンカアンサンブル　コンサート」
ピアノ：フィリップ・モル
フルート：ダビデ・フォルミサーノ

◇2009年12月
「古典楽器と声楽コンサート」
フラウト・トラベルソ：朝倉未来良
ヴァージナル：木村夫美　ピアノ：大堀晴津子
歌：原田静香　清造暁彦

◇2010年6月
「JAZZ Live」
ピアノ：吉田桂一　ベース：小杉敏
ドラム：村田健一郎　ボーカル：鈴木道子

◇2010年12月
「オペラ『魔笛』」
指揮：杉原直基　ピアノ：西村晶子
新津耕平 原田静香 嘉村弥生 河内紀恵
上村聡子 田中正子 岸一郎 叶健太
監督：田中章恵　メイク：うつい弘美
フルート：朝倉未来良　他

◇2011年7月
「東日本大震災応援チャリティコンサート」
ピアノ：西村晶子 中村由利子
歌：河内紀恵 田中正子
チェロ：茂木新緑　バイオリン：根岸一郎
ギター ハープ：アユオ　他

◇2011年11月
「東日本チャリティ
ベルリン・フィルハーモニーピアノトリオ」
ピアノ：フィリップ・モル
ヴァイオリン：リューディガー・リーバーマン
チェロ：クリストフ・イーゲルブリンク

◇2011年12月
「オペラ『くるみ割り人形』」
植田真史 田中章恵
ピアノ：西村晶子　出演：田中正子 河内紀恵 他

◇2012年12月
「フルート＆ピアノデュオコンサート」
フルート：ダビデ・フォルミサーノ
ピアノ：フィリップ・モル

◇2013年12月
「クリスマスコンサート　『ひとつの願い』」
田中章恵

◇2013年11月
「東日本チャリティ　ベルリン・フィルハーモニー
ピアノトリオ」
ピアノ：フィリップ・モル
ヴァイオリン：リューディガー・リーバーマン
チェロ：クリストフ・イーゲルブリン

◇2015年12月
「珠玉の饗宴、円熟の演奏で至福の時間」
フルート：ダビデ・フォルミサーノ
ピアノ：フィリップ・モル

◇2016年6月
「『竹ノオト』コンサート」
出演：入野智江 植松葉子 大橋エリ 山崎ふみこ
笹原小おはやしキッズ

◇2016年5月
「熊本地震復興　ベルリン・フィルハーモニーピアノトリオ」
ピアノ：フィリップ・モル
ヴァイオリン：リューディガー・リーバーマン
チェロ：クリストフ・イーゲルブリンク

◇2017年11月
「ベルリン・フィルハーモニーピアノトリオコンサート」
ピアノ：フィリップ・モル
ヴァイオリン：リューディガー・リーバーマン
チェロ：クリストフ・イーゲルブリンク

◇2018年3月
「新着ピアノお披露目コンサート」
ピアノ：フィリップ・モル
丸山和則 松田祐輔 岐部琴美 久都内祐一
マジック：辻友子　歌：嶽道優子

◇2018年12月
「室井滋　絵本＆音楽＆トークショー」
女優：室井滋　マジシャン：大友剛
打楽器奏者：植松透　笛：植松葉子

2007年に演奏していただいたレディ・ジニー・ゴールウエイさんのご主人は、「タイタニック」や「ロード・オブ・ザ・リング」などの音楽で世界一有名なフルート奏者のサー・ジェームズ・ゴールウエイさんです。このように世界で活躍している数多くの著名な音楽家がこの小さな音楽会に参加していただいています。ミラノスカラ座のフルート首席奏者ダヴィデ・フォルミサーノさん（現在はシュツットガルト音楽演劇大学で指導）は、桜丘音楽会で小学生を招待していることに感動し、ミラノスカラ座でも地元の子供たちを招待しての演奏会を開催することになったとのことです。オペラや朗読と音楽など新しい企画での音楽会が開催されています。嶽道優子さんが提案してくれた素晴らしい音楽会ですので、地域のイベントとして続けていければと思います。

VOICE ～ヴォイス～

桜丘街づくり結成30周年にあたって

ピアニスト　フィリップ・モル

桜丘まちづくり運動、結成から30年もの間、様々な行事の為にたゆみない努力を重ね、それ故に成果ある活動されてきた地域の皆様に、心からお祝いの言葉を申し上げます。

その中で、私は約20年余り、桜丘で演奏できた事を大変誇りに思い喜びを感じています。桜丘ホールはいつも集中力抜群の聴衆でいっぱい。その中には多くの子供達もまじり、その事はより良い未来を築く兆しだと感じ取りました。

大勢の聴衆を動員するにあたり、桜丘の商店や商売の方々がお店に来るお客様に、購入したものと同時にチケットを勧めたり、又はお店からのプレゼントにしたりと、我々も認識すべき努力や工夫が多々ありました。この様なまちづくりの実例が、様々な行事のプログラムを実行可能にし、真の地域社会の取り組みに繁栄されているのだと思います。

コンサートに参加した全ての出演者達は、小野さんや地元の商店の方々の惜しげのない尽力のおかげである事に、言葉では表せない有難さを感じています。

私の個人的な千歳船橋、そして小野さんとの繋がりは、1989年、私が将来の妻、Yukoに出会った年から始まりました。彼女の住居は、小野設計事務所の向かいに有りました。(今も有ります) 小野さんは親切にも我々のファックスでのやり取りを可能にし、というのも当時、二人ともファックスはまだ家に持っていなかったのです。その頃は、地域の集会で近所の人達のために、コンサートをするということは全く思ってもいませんでした。しかし、そういう機会を持つことが出来た事は、私達の人生において大きな喜びになっています。

桜丘集会室は、コンサートの為であろうと、又は他の地方自治体の活動に使われようと、地域の住民の集う為の理想的なスペースを提供しています。

桜丘地域社会の発展、そして街づくり活動の益々の成功を心より祈念申し上げまして、ご祝辞とさせて頂きます。

そしてその活動の一環である、桜丘コミュニティホール(集会室)での、成功を納めたコンサートシリーズに出演させていただいた事を、大変誇りに思い喜びを感じています。

VOICE ～ヴォイス～

地域社会活動30周年おめでとうございます

バイオリニスト　リューディガー・リーバーマン

38年間ベルリンフィルハーモニーのバイオリン奏者として演奏活動中ですが、幸いにもソロ奏者や室内楽のメンバーとしても、数多く日本中を演奏する機会に恵まれています。その殆どのコンサートの色々な思い出を、今でも鮮明に記憶し、時折それらを追憶し、楽しい思いに耽っています。

その中でも最も特別な場面は、主催者と聴衆の皆様に会う機会を持った事です。この繋がりを持つという事において、千歳船橋の素晴らしい桜丘コミュニティホール(桜丘集会室)で、フィリップとクリストフと共にベルリンフィルハーモニックピアノトリオとして、コンサートをした事に、特に言及したいと思います。

そこでのアーティストとしての観客と私との間の雰囲気は、いつも大変心地良かったことです。それは多分に主な理由として、優れた音響効果とホールの完璧な形状に依るものであると確信しています。そしてそれは親愛なる小野さん,貴方が地域社会のために建てたものなのです。

熱狂的な聴衆の中に、暖かい親しみやすいコンタクトを感じるのは常に喜びでした。ある時、私は演奏中、暫しお客様の方を見渡し、強い熱意ある視線を感じました。それは舞台袖の方から、聴衆と演奏者に、何も不足しているものはないか不備はないかと、注意を払いながら様子を常に伺っている、小野さんの配慮ある視線だったのです。

終演後、まちづくりの方々、お手伝いの方々、友人達と会って、小さな路地にある魚屋さんの二階に行って、新鮮な魚介類に舌鼓を打ったり、最近では、ナオキ タイスケ シェフの「ラピネタ」でイタリア料理を堪能したりと、色々な場所に連れて行って頂きました。

桜丘地域の皆様達との特別な食の交流は、私の思い出に残る楽しみの一つになっています。

VOICE ～ヴォイス～

桜丘まちづくり30周年を記念して

チェリスト　クリストフ・イーゲルブリンク

心から、桜丘まちづくりの皆様に、結成30周年のお祝いを申し上げます。

ベルリンフィルハーモニックピアノトリオと共に、そちらで演奏することは、常に大きな喜びでした。

まちづくりの皆様と千歳船橋の住民の皆様が、地域活性化のために、文化活動に重点を置き、その貢献的な活動と皆様の情熱の凄さに、非常に感銘を受けました。

そのような努力に依ってのみ、地域文化のアイデアを活かし続ける事が出来るのです。

付け加えて、まちづくりの皆様方とコンサートのお手伝いをされている方々が、私達に示した心からのおもてなしに、私は深い感謝の気持ちでいっぱいです。

(個人的に、私はコンサートの後でのディナはいつも何処へ連れて行ってくださるのか、楽しみの一つでした。)

街づくりの皆様の、これからの更なるご成功をお祈りいたします。

VOICE ～ヴォイス～

桜丘まちづくり活動30年のお祝い

フルート奏者　ダヴィデ・フォルミザーノ

私が最初に桜丘の素敵なホールで演奏してから、何年もの年月が過ぎてしまいました。しかし、その事を思うと、何故か昨日の事のように、溢れかえる懐かしさでいっぱいになります。

街づくり活動の方々と地域のお客様はいつも私を暖かく迎えいれてくださり、私とYukoとフィリップとで作る小さな音楽の贈り物を皆様に届けることで、私もそちら(千歳船橋)の美しい地域社会の一人であるかように感じさせてくれました。

その事は私どもアーティストにとって、とても貴重な体験です。そちらでの夕暮れ時を過ごした、音楽の中での思い出の数々を、今も大切に心の箱にしまって守り続けています。

近いうちに又千歳船橋に戻り、率先したまちづくりの方々の終わる事のない崇高な目的の為に、一緒に参加させていただきたく思います。

これからも頑張ってください！　　尊敬と情熱を持って―

VOICE ～ヴォイス～

千歳船橋に想う

丸山和範　国立音楽大学教授 作曲家

小田急線千歳船橋は、まだ私が33歳くらいで、芸大ソルフェージュ非常勤などやりながら、嶽道優子さんという当時二期会のソプラノ歌手、彼女の伴奏をたまにやって、小田急線と京王線をうろちょろしてた時期に、よく通った駅で、南口を降りて七面鳥という中華屋とか駅前回転寿司で良く食べた。まあ、それから優子さんはフィリップモルさんという世界的ピアニストと結婚後、ベルリンに行き、彼女達が帰国するとまた、千歳船橋や下北沢へ通って、うろちょろして‥‥。今度は、ベルリンフィルのバイオリニストのリューディガーさん、チェリストのクリストフさん、達とフィリップさんとのトリオになり、桜丘ホールという街の中の昔の公民館のような風情のホールでコンサートをやるようになり、私も日本民謡などを編曲してアンコールに演奏して頂いて、本当に素晴らしい出会いをさせて頂いた。それから、当時ミラノ・スカラ座フルーティストのダビデフォルミザーノさんも来て、そこで、優子さんとフルートだけの小さなオペラ「鶴の恩返し」を作曲して、演奏して頂いたらまたまた素晴らしい限り。

そうした輝かしい演奏家との出会いを作ってくれたのは嶽道優子さんと千歳船橋の商店街の方々のおかげである。稲荷森稲荷神社もたまにお参りして良い場所。また、若いシェフが抜群のイタリアンのラピネータは、桜ヶ丘文化会館のコンサート後の打ち上げは、いつもそこだった。イタリア修行の手腕は前菜からデザートまで全部が全部毎回手抜きなく、みんながあっという間に食べてしまう。

食べもの屋さんやレストランは最近ではフィリピン料理や世界各国エスニック、秀逸な割烹料理や創作料理、蕎麦屋も素晴らしくて、益々良い店が出来ている激戦区となっていて、休日や休日前は予約で一杯。

それでいて、クルマの通りも疎らな商店街は、昭和の良き面影が残り、こないだも早春の花見をしながら、いくつかの小さな公園をそぞろ歩き、これまた秀逸な居酒屋さんになだれ込むという誠に風流な散歩ができた。

作曲や編曲の仕事をしながら音大の先生をやっている私も、今年還暦を人並みに迎えてはみたものの、30代のいつも落ち着かないけどワクワクしていた頃を、この千歳船橋は来るたびに蘇らせてくれる。聖蹟桜ヶ丘か小田急永山駅から通ってくるのはもう遠いとは思わない。そして、今度は何を食べようかな、と思うのである。

㉑千歳船橋駅舎計画案づくり 平成9年(1997年)

【背景】

小田急線の高架複々線化については、地下化を推奨する団体との訴訟が続いていました。このこともあり、千歳船橋の駅周辺の敷地の収用が進まなかったことから、当初の予定より遅れることになりました。広場づくりや駅舎の計画を検討するために、駅南側の桜丘まちづくり協議会と北側の千歳船橋まちづくり協議会が一緒に検討することになりました。検討会には駅舎と駅前広場予定地が、砧総合支所の管轄ということで、区の担当者が出席していました。小田急電鉄の高架担当者にも来てもらい、電鉄として駅舎の考え方やどこまで変更が可能かなどの説明を受けました。小田急電鉄からは、喜多見駅を基本デザインとして他の駅舎も統一デザインとし、祖師ヶ谷大蔵駅から世田谷代田駅の5駅を色によって区別するという提案でした。

合同のまちづくり協議会で有志を募り、当時完成していた喜多見駅を見学に行きました。開放的で今までの駅舎とは異なるデザインでしたので、基本的なイメージが協議会メンバーで共有することができました。

最初に小田急電鉄から示された千歳船橋駅舎案は、馬事公苑が近いということで、駅舎全体の色は茶系統で外壁は栗毛色の馬をモチーフにしたデザインでした。まちづくり協議会のほとんどから、「競馬場の駅みたいで、良いイメージではない」「茶系統は暗い」などの意見が出されました。そして、「自分たちの街の顔になる駅だから、千歳船橋に相応しいデザインをまちづくり協議会で作り上げ、小田急電鉄に提案しよう」ということになりました。

【検討】

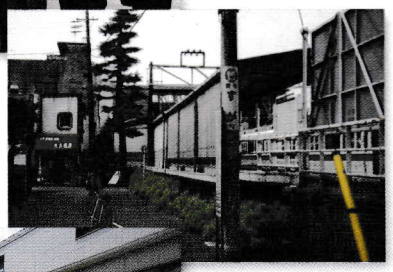
城山通り側からと船橋側から写真を撮って、どのように見えるかなどを確認しながら進められました。コンサルタントによる国外・国内の駅舎や駅前広場の勉強会を行ったうえで検討作業に入りました。一日の乗降客約6万人(各駅停車のみが停車する駅の中で最も多い)の人に利用される施設であるため、千歳船橋にふさわしいデザインにしようということになりました。駅舎デザインの提案に際しては、一般住民にも呼びかけて参加者を募りグループに分かれてのワークショップ形式で検討されました。課題の整理から、千歳船橋の特徴など図にしたうえで、最終的にはグループごとに作成した計画案や紙模型を使ってプレゼンテーションを行いました。各グループの案に対していろいろな意見が出されました。その中で「世田谷の原風景である屋敷林をイメージした」というコンセプトで提案された「屋敷林の中に建つ駅舎」がいいのではないかということで意見の一致を見ました。検討会で絞られた案をコンサルタントが具体的なイメージ図として作成し、まちづくり協議会で確認したうえで、小田急電鉄に提案しました。小田急電鉄からの回答として「駅舎の構造もあるので駅舎そのものの形を大きく変えることはできないが、提案されたコンセプトはデザインに生かすようにする」という回答を得ました。そして現在の駅舎が完成したわけです。外壁である「緑の樹木が折り重なった屋敷林の中に駅舎がある」というデザインになりました。ホームの茶色の柱は、他の駅で緑を採用しているため、変更できませんでしたが、以前に小田急電鉄から提案された馬の案よりは良くなったと思います。城山通りの歩道沿いに設けられた緑地帯は、外壁の樹木のデザインと一体となって、より一層緑に囲まれた駅舎のデザインが強調されました。

駅舎の計画で、提案したことは、改札口は商店街の入口側だけにすることでした。現在の駅ができる前は、新宿側にも改札口があり、朝夕の通勤通学時には臨時に利用できました。両側に設けた方がよいのかもしれませんが、できるだけ商店街に立ち寄ってほしいということで、現在の位置だけに設けるという要望も出されました。

駅のホームからは周辺地区が低層の住宅地ということもあり、遠くの屋敷林や公園、神社の緑が眺められます。電車を待っている間も退屈しないよう

に駅舎の窓については、城山通り側が見渡せるように透明ガラスとしました。船橋側については、駅舎に面する側が住宅の窓になっていることから、居住者へのプライバシーに配慮して「すりガラス」にしましたが、駅前広場に面する部分については、見渡せるように透明ガラスを採用しています。ホームから成城方面を見ると、冬場の晴れた日にはきれいな富士山が見えます。

▲他の駅舎の見学会



▲旧千歳船橋駅舎

▲現在の千歳船橋駅舎

VOICE ～ヴォイス～

まちづくり活動に思うこと

星野伸

桜丘まちづくり協議会には、定年退職後の平成８年から参加しています。当時、まちづくり協議会に参加するようになって、ごみ、自転車、違法広告除去、小田急線高架事業に伴う駅舎の設計、高架下の利用計画等一緒に検討しました。

工藤さん、岩瀬さん、木村さんなどと共に、清掃活動や不法看板の撤去などを通じて桜丘の近隣の方々とも知り合いになりました。

次世代の皆さんには、少子高齢化の進む中、異なる世代の方とも積極的に交流し町の発展に寄与し、これからも住みやすい桜丘であり続けることを切に願っております。

㉒千歳船橋駅前広場計画案づくり
平成10年（1998年）

【背景】

小田急線の高架複々線化工事に伴い、千歳船橋駅前広場の計画がありました。

千歳船橋駅周辺のまちづくりには、北側と一緒に進めなければならない課題もあったため、砧総合支所の発案で計画案づくりが始まりました。駅舎や駅前広場、周辺の交通計画などについて、世田谷総合支所と砧総合支所で管かる範囲がわかれていたため、新たに桜丘２丁目西地区まちづくり協議会を拡大して、千歳船橋駅南側協議会と船橋地区のまちづくりを行っていた千歳船橋駅北側まちづくり協議会の合同で検討することになりました。千歳船橋駅北側まちづくり協議会は、桜丘まちづくり祭りのようなことを船橋地区でも行いたいという有志が集まり船橋１丁目の公園で行ったことがきっかけで、まちづくり協議会が発足しました。駅前にあった柳の木の保存や小広場の計画など積極的に活動していました。会議は主に世田谷信用金庫船橋支店の会議室を借りて何度か検討会を開催しました。検討会には、当時の松本支店長も出席していただき、幅広い立場からの検討が行われました。

【検討】

検討課題に挙がったのは駅前広場の使い方（交通広場か歩行者用の広場か）、改札前までの交通処理とタクシー乗り場、放置自転車、駅前にあった柳の木の扱いなど、多くの課題について検討することになりました。広場の面積は、小田急電鉄と世田谷区との間で合意していましたので、主に「どのような目的の広場にするか」「駅への送り迎えのための駐車スペースをどこにする」「タクシー乗り場の位置」などの交通処理計画に多くの時間が割かれました。最後まで議論になったのが、改札口前の高架下に「車の乗り入れを認めるか？一切排除するか？」という問題でした。当時、タク

シーを拾う場合、城山通りを通行するタクシーを止めて乗り降りするという状態でした。道路が渋滞することもあり、雨の日などの乗り降りが大変でした。高齢者からは「高架下の改札前にタクシーが待機できる乗り場を設けてほしい」、一方「改札前にタクシーを乗り入れると、駅前広場に入り込む車も増えることになる」となかなか意見がまとまりませんでした。その他、城山通りの歩道を狭くして設けるなどの案も検討されました。

道路計画は、道路交通法を無視するわけにはいきませんでしたので、成城警察の方に出席してもらい、どのような規制ができるのかなどもうかがいました。また、管理の関係もあるため、区の道路管理課にも路面舗装やベンチなどの設置の有無なども確認しました。

【結果】

交通計画としては、城山通りから駅前広場を通り、森繁通りに抜け車がないように、送り迎えの車のみ改札前にアクセスできるように一方通行としました。タクシー乗り場に関しては、城山通りでの乗降は、渋滞を招くということで、当時の公社住宅の角に設けることになりました。改札口から離れていることもあり、実際はあまり利用されない結果になってしまいました。その他の部分については、ほぼ計画案に沿って計画されたものと思います。

高架下も広場として開放されました。今まで駅のわきにあった交番も高架下に入り、複々線化で移転を余儀なくされたコンビニエンスストアも駅前広場に面した高架下に移転しました。高架下の広場には柱を囲んでベンチが設置され、休憩場所となっています。改札口の前も広くゆったりした空間になっており、地域の祭りでは小田急線の安全祈願のため神輿が改札前まで入ってきています。

かつては、千歳船橋商店街の盆踊りなどのイベントは、世田谷信用金庫船橋支店前の道路を通行止めにして行っていましたが、交通規制強化で道路での盆踊りができなくなっていました。駅前広場ができたことで、今では商店街の盆踊りができるようになったことと、まちづくり活動に端を発した「ちとふな祭り」などの数々のイベント会場として利用されています。

ただ、計画の実現に際しては、駅前広場の管理などについて住民自らが管理する等も提案されましたが、計画通りにはいかず、数年で駅前広場全体に放置自転車であふれるようになりました。あまりにも放置自転車が増えたため、砧総合支所の担当課は、対策としてプランターの設置やバリケードが置かれるようになり、当時の計画通り使われ方とは程遠いものになりました。放置自転車禁止のキャンペーンなども行われましたが、放置自転車が一向に減る様子は見られませんでした。

平成23年に区が町会や住民に呼びかけて新たに駅前広場を検討する会を開催することになりました。一年間の検討会の末、広場の中央に樹木を植える案などの基本案が提示されましたが、イベント開催の邪魔になるという理由で、その後この計画は未だ進んでいません。この検討会については、駅前広場利用の再検討の項で説明します。

ここでは、駅前広場という表現をしましたが、形状としては広場ですが、管理上は道路の一部という扱いになるということです。

▲旧千歳船橋駅前広場

▲現在の千歳船橋駅前広場